

(様式3-1) 研究研修活動記録票(研究会、研修会開催又は参加に要する経費)

No.1

嬉野市議会議員

水山 洋輔

開催月日	令和6年7月29日(月)～7月30日(火)		
開催時間	1日 15:00 ～ 16:30 2日 9:30 ～ 10:30		
開催場所	八代市役所 全員協議会室		
主催者	九州若手議員の会		
研修会等の名称	八代市におけるデジタルを活用した地方創生について		
講師等の氏名等	①総務省四国総合通信局 情報通信部長 (前八代市 政策審議監) 村上 理一 氏 ②一般社団法人DMOやつしろ 事務局長 永田 浩基氏 事務局統括次長 佐藤 圭太氏 次長 中村和博氏		
内容・結果等	7月29日(月) 15:00～16:30		
	研修内容 : 八代市におけるデジタルを活用した地方創生について		
	7月30日(火) 9:30 ～ 10:30		
	視察内容 : DMOやつしろの取り組みについて		
上記活動に要した経費	経 費 の 内 容	支 払 先	金 額 (円)
	会場費		
	講師謝礼		
	出席者負担金		
	旅費	バス	1,440
	旅費	九州旅客鉄道株式会社	13,660
	宿泊費	セレクトロイヤル八代	5,960
	合 計		21,060

(様式3-1) 研究研修活動記録票(研究会、研修会開催又は参加に要する経費)

No.1

嬉野市議会議員

水山 洋輔

開催月日	令和6年7月29日(月)				
開催時間	15:00 ~ 16:30				
開催場所	八代市役所 全員協議会室				
主催者	九州若手議員の会				
研修会等の名称	八代市におけるデジタルを活用した地方創生について				
講師等の氏名等	①総務省四国総合通信局 情報通信部長 (前八代市 政策審議監) 村上 理一 氏				
内容・結果等	(内容) 八代市のデジタル化の取組について ①地域課題の解決を図るためのデジタル技術を手段とした行政全体のありかたの再構築や組織文化の刷新に取り組むための「八代デジタル化推進基本計画」を令和4年2月に策定。重点取り組みとして、防災、市民サービス、医療・保健・福祉、農林水産の4分野として、事業毎にデジタルによる解決策の実証実験や実施に取り組んでいる。その他にも商工、観光、教育、交通分野においてもデジタル化の推進に努められている。デジタル化の推進による、「スマートシティーやつしろの実現」を目標とされている。②スマートシティーやつしろの実現に向けた取り組みについて、ゼロカーボンシティ宣言や自治体SDGsモデル事業への採択、新八代駅周辺の物流・人流機能高めると共に企業誘致用地の整備など熊本県南部の中核都市としてのまちづくり。再エネ起点の取り組みとして、新八代駅周辺や新庁舎周辺のエリアをモデル地域として、家庭・事業所・公共施設への太陽光・蓄電池の設置及びZEH住宅支援、EV充電器の導入、企業PPA(太陽光発電事業)支援など脱炭素関連の施策がある。 (まとめ) 窓口や庁舎内デジタル化の取組事例として、市役所窓口(市民課窓口、福祉総合窓口、国保ねんきん窓口)において非接触型のディスプレイの導入を全国の自治体で初めて採用されたとの説明を受けた。また、キャッシュレス対応のセミセルフレジの導入事例もあり、実施際に現地確認することまではできなかったが、運用上の使い勝手など参考にしたいと感じた。市民サービス関連のデジタル化として公共施設のオンライン予約システムがあり、24時間スマホ、パソコンによる予約やクレジットカード決済システムを導入されており、また本庁舎、支所の各種証明書(住民票、戸籍謄本、印鑑証明等)手数料の支払いをキャッシュレス対応されていた。行政窓口のデジタル化は、課題等の共通点も多く様々な取り組みを参考にし、新庁舎や今後の塩田庁舎の利活用等のためにも調査・研究を引き続き行いたい。				
上記活動に要した経費		支	払	先	金 額 (円)
	会場費				
	講師謝礼				
	出席者負担金				
	旅費				
	旅費				
	宿泊費				
	合 計				0

(様式3-1) 研究研修活動記録票(研究会、研修会開催又は参加に要する経費)

No.1

嬉野市議会議員

水山 洋輔

開催月日	令和6年7月30日(火)		
開催時間	9:30 ~ 10:30		
開催場所	八代市役所 1F会議室B		
主催者	九州若手議員の会		
研修会等の名称	DMOやつしろの取り組みについて		
講師等の氏名等	①一般社団法人DMOやつしろ 事務局長 永田 浩基氏 事務局統括次長 佐藤 圭太氏 次長 中村和博氏		
内容・結果等	(内容) 平成28年3月に設立、翌年11月にDMO登録。現在11の事業に取り組まれている。八代市は、東西に広く、日奈久温泉や球磨川の自然、五家荘など地域ごとの特色がある。また以前から大型クルーズ船の寄港地でもあることから、令和2年には「くまモンポート八代」が整備され、熊本県南地域の拠点として注目されている。DMOでは隣接する店舗において、くまもんグッズ専門道を運営し自主事業の財源確保に努める。コロナの影響もありインバウンド需要が減少したため、個人旅行(県内外の30代~40代)を中心とした旅行者へも注力されているが、八代市は工場が多く交流人口の殆どがビジネスマンであり宿泊施設もビジネスホテルが多いため新たな観光資源の創出が必要。SWOT分析を用いて県内生産量の40%を占めるGI登録された生姜と県民一人当たりの飲食店の多さに着目し、生姜を活用した料理の開発に着手。市内の飲食店に「豚の生姜焼きプロジェクト」への参画をもらいジンジャーポークの聖地として令和5年度は20件の飲食店が参加。その他にも生姜を使ったスイーツなどの開発もJA等と協力して実施中。 (まとめ) 八代市の特徴として九州新幹線やクルーズ船の寄港地があり、コロナ禍で動きがなかった外国人観光客向けのクルーズ船も回復傾向にある印象を受けた。また新たな観光資源として、地元で生産されている生姜によるブランドづくりに取り組まれており「豚の生姜焼き(ポークジンジャー)プロジェクト」に参加する飲食店も増加中とのことから今後の発展に期待したい。DMOの運営財源については、自主事業の比率が22%を占めており、その他は委託料や交付金等でまかなわれていた。安定した財源の確保はDMOを運営するうえで一番の課題であると感じた。		
上記活動に要した経費	経 費 の 内 容	支 払 先	金 額 (円)
	会場費		
	講師謝礼		
	出席者負担金		
	旅費		
	旅費		
	宿泊費		
	合 計		0